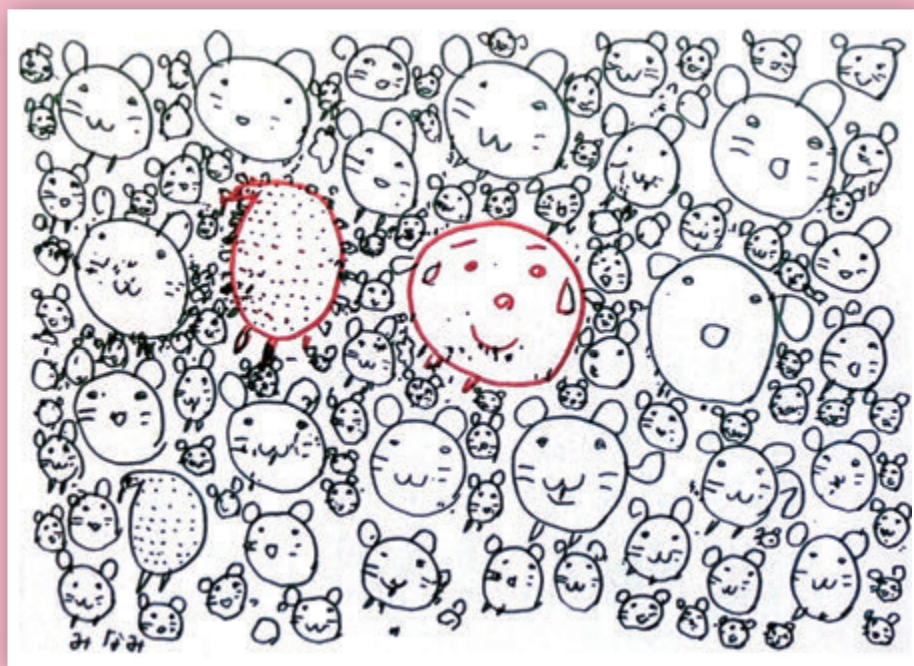


Run&ishin



表紙作品

- 作 者：ながさか みなみ長坂 美波 (アトリエCoCo)
- タイトル：無題
- 画 材：色鉛筆・サインペン
- サ イ ズ：画用紙八つ切り



よこがお

表紙画作者紹介

長坂 美波 さん

大好きな猫と鳥を、たくさん描きました。

国連の『障害者権利条約』をご存じですか？ 障がいのある人の人権や自由を守ることを定めた条約の中で、日本政府の取り組みについて昨年8月に審査が行われ、9月総括所見・改善勧告が公表されました。全66項目のうち3項目は「要請」という強い言葉を使っています。法的な拘束力はありませんが極めてその意味は重く、日本の動向に世界から注目が集まっています。その中、「今私たちにできることは何か」に焦点を当てて考えていきたいと思えます。

「私たちのことを私たち抜きに決めないで」

この合言葉のもと、世界中の障がいのある人たちが参加し作成されたのが「障害者権利条約」です。目的は障がいのある人たちが差別を受けることなく、好きな場所で暮らし、学んだり働いたりできるという当たり前の権利の保障です。



改善勧告で注目すべき3点

○要約(国連がしてほしいこと)(赤字)

障害者の権利に関する委員会 第27回セッション2022年9月9日発出 より抜粋
全文は右のQRコードを読み込んでください。



障がいを理由に強制入院させる法律を廃止してください。

「**身体**の自由及び安全」(第14項目目 権利委員会：要請)

- 障がい者の強制入院を、障害を理由とする差別であり、自由の剥奪に相当するものと認識し、実際の障害または危険であると認識されることに基づく障がい者の強制入院による自由の剥奪を認めるすべての法的規定を廃止すること。

※以下省略

集団生活の場を廃止してその分の予算を地域社会で生活するための支援に振り分けてください。

入院している障がい者全てのケースを見直し、無期限の入院をやめてください。

入所施設・GHグループホームのような障がい者だけが集まって生活することは地域で生活するとは言いません。

「**自立した生活及び地域生活への包容**」(第19項目目 権利委員会：強く要請)

- 障がい児を含む障がい者の施設収容を廃止するため、予算配分を入所施設から障がい者が地域で他の人と対等に自立して生活するための手配と支援に振り分けることにより迅速な措置をとること。
- 精神科病院に入院している障がい者、全てのケースを見直し無期限の入院をやめ、インフォームド・コンセントを確保し、地域社会で必要な精神保健支援とともに自立した生活を育むこと。
- 障がい者が居住地、地域社会のどこで誰と暮らすかを選択する機会を持ち、グループホームを含む特定の生活形態に住むことを義務づけられないようにし、障がい者が自分の生活に対して選択とコントロールを行使できるようにすること。

※以下省略

障害の有り無しに関わらず「一緒に学ぶ仕組み」を作ってください。

「**教育**」(第24項目目 権利委員会：強く要請)

- 分離された特別な教育をやめる目的で、教育に関する国家政策、法律、行政上の取り決めの中で、障害のある子どもがインクルーシブ教育を受ける権利を認識し、すべての障害のある生徒が、あらゆるレベルの教育において、合理的配慮と必要とする個別の支援を受けられるように、特定の目標、時間枠、十分な予算で、質の高いインクルーシブ教育に関する国家行動計画を採択すること。
- すべての障害児の普通学校への通学を保障し、普通学校が障害児の普通学校を拒否することを許さない「不登校」条項と方針を打ち出し、特殊学級関連の大臣告示を撤回すること。
- 障害のあるすべての子どもたちが、個々の教育的要求を満たし、インクルーシブ教育を確保するための合理的配慮を保障すること。

※以下省略



特定の生活様式を押し付けないための私たちの挑戦!



☀うらかな陽射しの中、
みんなでお昼寝♪

ここで寝たいからここで寝る。
今寝たいから今寝る。
「起きろ!」という人もいない、
「こんなところで何してんの?」
という人もいない。
それが自由なんだよね♪



☕ 深夜2時の来訪者!

職員室、夜な夜な訪ねてくる方がいる…
寝る時間ですよの言葉もない。
今晚もうエルカム!
「ちょっとコーヒーでも飲んで話していきませんか?」
今夜の夜勤者は担当職員、
こんな風に独り占めできるとき…、
贅沢な夜が更けていく。



🍜 土日のコックさん

毎週土、日の夕食は食べたい物を自分で作ります。
食材は職員と一緒に買い物したりリストを渡して
買ってきてもらったり…
土曜日はご飯、日曜日は麺にするんだよ!
今日は鍋焼きうどんです!
おいしくいただきます。



カチコチになりがちな私たちの頭。『その人なりの人生の豊かさや幸せをもう一度考え直す。』今回の勧告はそのきっかけになるかもしれません。この機会に皆さんも「私たちにできること」「どれくらい個別な配慮ができるか」を改めて考えてみてください。



わたしのチャレンジ

いろいろなことに
チャレンジしている
利用者さんをご紹介します！

入所施設で生活をしながら、仲間との関わりを楽しもうとチャレンジしている
上原 岳さん (22歳) の日常を紹介します。

自分の気持ちを言葉でうまく表現できない上原さん。地域のサークル活動に参加して自分を表現！

チャレンジ!

地域で安心安全に過ごせる仲間と 居場所づくりにチャレンジ!

居場所その1 【スキップ】

『スキップ』は音楽を楽しむ会です。6歳から太鼓を始めました。
『今日は練習だよ』と声をかけると、自分で支度を始めるまでにな
りました。活動を始めてから、苦手な音が少なくなりました。



お母さん より

太鼓への参加が続かなかっただけでも、お母さん
『スキップ』のおかげで音楽・体を動かすことが好きだと分かりました。
そこで、『からふる』を立ち上げて仲間を集めました。

居場所その2 【からふる】

『からふる』は自分の“色”を大切に表現するダンスグループです。音楽
がかかると、どんな場面でも
自然に体が動く上原さん。

施設で ようす の様子

事業所の音楽の時間でも、音楽が
ながれ、前に出て踊ってくれます。



これからも太鼓やダンスだけじゃなく、仲間と楽しくできる事が
あったら挑戦したいな。地域のイベントに参加したり、発表した
りして、地域と繋がっていきたいです。

ようごがっこう そつぎょう にゅうしょ うえはら しゅうだんせいかつ にかて
 養護学校を卒業してすぐ入所された上原さん。集団生活はちょっと苦手・・・だから・・・



チャレンジ!

仲間との関わりを楽しめる毎日にしたい!

いちにち すけじゅーる がわからないと不安。何をすれば良いかわからないと不安。
 上手く気持ちを伝えられないと、自分や人、物に当たってしまったことも・・・でも今は、予定が決まって少しずつ安心できる時間が増えています。
 入所施設の生活が4年目をむかえた上原さん。これからは仲間との関わりを楽しめるよう、日々チャレンジしています。

仲間と一緒に、大好きな散歩と音楽に取り組みます

散歩



さんぽ だいす
散歩は大好き!
 気の合う仲間と
 施設の裏にある
 山に登って一緒に
 お弁当食べたいな。

みんなと一緒にやると楽しいな。



音楽リズム

日常のこまごま



たの とき きぶん よ とき くちぐせ ペットボトル回収
 楽しい時、気分の良い時は「いいね!」が口癖。ペットボトル回収
 の時は、1本入れるごとに「いいね!」と言います。



いいね!

ご家族から

岳にとってサークル活動は、情緒の安定に良いようです。
 地域で安心安全に過ごせる仲間がいて、居場所がある。地域のイベントに参加し発表する機会もいただける。この活動に参加することを応援し続けたいと思います。
 障がいがあってもなくても同じ場で自己表現ができる。
 こんな活動の輪が広がってほしいと思います。
 親亡き後も、こうした場所が岳や他の方々にも適切に提供されますように願っています。





信州 あちら、こちら から



長野市を拠点に活動する『長野マジッククラブ』を紹介します。

このクラブは、アマチュア精神の下、楽しみながらマジックの知識や技術の習得に努め、福祉及び地域社会への貢献を図ることを目的として、平成19年5月に活動を開始しました。

代表の上原さん



現在クラブでは、山上清利先生指導の下、10代から80代までの25名の方が所属しています。メンバーには、就労移行支援事業所に勤務している方もいます。マジックは、どんな方でもトライできます。興味のある方はぜひご連絡ください。一緒にやりましょう。

メンバーの取り組みを紹介

山上先生の下でマジックを学んだメンバーが、数多くの福祉施設で披露しています。利用者さんにマジックの不思議さが伝わり、喜んでもらえるよう、見ている方の表情を大切にしています。



観客にマジックの不思議さや楽しさを届けたいという思いで頑張っています。



障がい者支援施設のイベントでマジックを披露しました。利用者さんが素直に喜んでいる姿に親近感を覚えました。



～ マジックを習いたい方、マジックの依頼の問い合わせ先 ～
代表: 上原 幸善 携帯: 090-8328-7772

一緒にマジックいかがですか? 福祉施設の職員さんや利用者さんもウェルカムです!

長野県知的障がい福祉協会会長 宮下 智（明星学園）

【愛着だって発達する?! その②】

さて、前回からの続きです。<眼球が上転し、尖足で歩き回り、自分の居室に掲示してある外出や面会のスケジュールを破って食べてしまう>という一見ハチャメチャに見える彼女の行動の真意は？

彼女には、一年に何回かの眼球上転は今までもありました。しかし、毎日のように初めてのできごとです。尖足で歩き回るのも初めてのできごとです。さらにスケジュールの紙を破って食べちゃうなんていうのはもちろん生まれて初めての行動です。

初めての行動には、それ相応の理由があるには違いありませんが、まず私たちは支援の科学性を高めるために、それを推測する前に情報収集により事実の確認を行う必要があります。

このような課題行動の理由を知るときに一番重要な情報を得ることができるのは「その行動がいつから始まったのか？」にあります。彼女の場合も背景にある本当の気持ちに迫ることができるヒントがやはりこの質問の答えにありました。

「いつからか？」それは「8月初め頃?」、「その頃、何があった？」まずは「7月末に新入所の方があった」、「他には?」「職員の途中退職が一あった」そして、それに伴って「担当職員の変更があった」そして、ローテーション職員の勤務体制を充足させるために「他の部署から応援職員の派遣があった」…。次々と情報が収集され、確認されていきます。そして、それらの情報全てが、一つの方向性をもって整理されていきます。つまり7月末から8月初めにかけては、人間関係が激しく動いて、不安定になっていた時期ということになります。

その超不安定な時期に、彼女は何を思っていたのでしょうか。これだけの変化があれば、もちろん職員集団だって相当大変でしょう。使わなくてもいいたくさんの心のエネルギーを費やさなくては、このような危機はとうてい乗り越えることができません。

職員集団が大変な時には、当事者の方々だって同じように、あるいはそれ以上に大変なのだという常識を私たちは持つべきなのですが、多くは自分たちの大変さにかまけてそれを忘れず。

新入所があれば、新しい人が入ることで自閉症の方が嫌う<風景が変わる>が必ず

生じています。担当職員が変わります。そんな時、彼らは何を思うのでしょうか？まずは「自分の担当職員は変わらないだろうか？」です。そんな時にそれに追い打ちをかけるように途中退職者が出ます。さらに「担当職員が変わらないだろうか？」の疑問は膨らんでいきます。そして、さらにその不安に「自分の担当職員は途中で辞めないだろうか？」が付け加わります。

彼女に、担当職員への愛着が育ってなければ、この気持ちは今回のようなく初めて>の行動につながらなかったでしょう。なぜなら、今までだって新入所や担当職員の変更はあったし途中退職者もあったのですから。そしてその時には今回のような行動は生じなかったのですから。なぜ今回このようなく初めて>の行動が生じたのかは、彼女に今までとは異なる担当職員への気持ちが動いていたと考えるしかありません。

それを確かめる実践が始まります。

<スケジュールの紙を食べちゃう>は、将来への不安、スケジュール通りにならない、変わってしまう不安を反映していると考え、新しく作り直したスケジュールを貼りながら、「予定した通り計画は何も変わらないし、もちろん担当は変わらない」ことを伝えました。また<尖足で歩き回る>行動には人生を歩んでいくには支えが欲しいと思っている彼女の気持ちを想像しながら「途中でこの仕事を辞めることはしないし、どこへも行かない、そして3月までは担当を続けるし幸せになるためのお手伝いをしたいと思っている」を伝えました。その後、彼女のこれらの課題行動は確実に消失していきました。

彼女は、今まで感じなかった担当職員喪失の不安に、眼球上転し尖足になりスケジュールを食べたのです。ひっくり返して考えれば、それほどに担当職員に愛着を感じ始めていたのです。ついこの間まで自分の感情表現を極度に抑え込んで生きてきた彼女がこのようなポジティブな感情に揺さぶられるまでになっていたのです。

このような感情の揺さぶられこそが幸せであり豊かな人生を送ることであることだと私は考えます。ねえ、皆さん、愛着だって、発達するのですよ。

障がいのある・ないに関わらず、私たちのコミュニケーションツールの一つに言語的コミュニケーションがあります。しかし、相手に言葉だけではうまく伝わらないことってありませんか？ 伝わらない場合、態度や表情、色々な行動で伝えようとする。福祉現場で働く私たちの日常で、発信された言葉の本当の意味を知った時に感動することってありませんか？ その感動の一コマをお伝えします。

「コーヒー飲みたい」 K学園のIさん

「コーヒーは?」「おうち?」「〇〇さん」何度も何度も、矢継ぎ早に繰り返される彼の問いかけに、スタッフは、ひとつひとつ答えます。「帰りにね」「4時にね」「はい」「ねえ、本当はコーヒーじゃなくて他に何かさあ?」なんて言うと、ちょっと難しい顔をします。『その答えじゃないんだよね。』

「コーヒーコーヒーって、頭の中がコーヒーになっちゃいますよ。」変な冗談には、うひゃひゃと笑ってくれます。笑ってほしいから、そこから千本ノック大喜利の始まりです。

際限なく飛んでくる球をせっせと打ち返していると、落ち着きなく飛び跳ねていた心が、いつしか静かに着地します。「コーヒーばっか言ってねーで、音楽聴きに行くかあ。」束の間の休息です。



本当はコーヒーじゃないってことはわかっています。スタッフも、本人も。

「うるさいって言わない?」「あっちいけって言わない?」「閉じ込めないで」「置いていかないで」「叩く人嫌い?」「僕のこと嫌い?」「嫌いって言わないで」…あふれる不安が流れつくすまで、スタッフは「そばに居るよ」を打ち返し続けます。来る日も、来る日も。

本当の気持ちをうまく伝えられないIさん。本当は、「自分の丸鋸がほしい」「武道館のコンサートに行きたい」って言いたいんだよね。

Iさんが伝えてくれるのを私たちは待っています。手始めに「スシロー行きたい!」って言ってみましょうか。

長野県知的障がい福祉協会からのお知らせ

広報誌「Run&らんらん」



定期購読のご案内

年間購読料150円(年4回、送料込)
1号あたり37.5円

ぜひ、定期購読をご検討ください

- ・保護者会に加入されていない保護者、ご家族の皆様へ
- ・事業所内での回覧ではなく、職員一人ひとりに
- ・たくさんの方の目に触れるよう、事業所の来客スペース等に

協会事務局までお気軽にお問い合わせください。

長野県社会福祉施設利用者互助会からのお知らせ

「令和5年度 付添介護保険」 更新のお手続きについて

令和5年度付添介護保険継続契約につきまして、契約者様は3月末日までに手続きを完了していただきますようお願いいたします。

なお、新規での加入をご希望の方は、ご利用の事業所へお問い合わせください。

お問合せ 長野県社会福祉施設利用者互助会

☎026-223-2682



発行者 長野県知的障がい福祉協会 広報委員会

〒380-0936 長野市大字中御所字岡田98-1

Tel:026-225-0704 Fax:026-225-0714

URL:http://id-nagano.or.jp/

長野保健福祉事務所庁舎内

E-mail:na-chifuku@deluxe.ocn.ne.jp

発行日 令和5年3月20日 印刷所 たけい印刷

広報誌「RUN&らんらん」は長野県知的障がい福祉協会のホームページからも閲覧できます。

